

りょうはく f-3 両白山地の天然杉



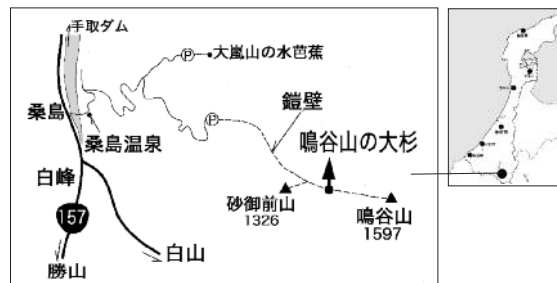
白山を中心にした山地と、能郷白山を中心にした山地は両白山地と呼ばれ、富山県、石川県から岐阜県、福井県に及ぶ。この両白山地の標高1,000m 前後の尾根筋に天然杉の巨木が点在している。情報は各地にあるが、残念ながら山道のある場所しか取材ができていない。中には幹周12m を越える報告もあるが、所在がつかめていない。

なるたにやま おおすぎ 鳴谷山の大杉 評価 B

幹周 M8.5m(1.3m 2010)

石川県白山市白峰 鳴谷山尾根

江戸時代に、切出しが容易な積雪期に伐採されたため、地上2~3m で伐採された。その後、古株更新によって分岐幹が立上がった。根元に古株跡の空洞がある。主幹は根が巨大化したもの。

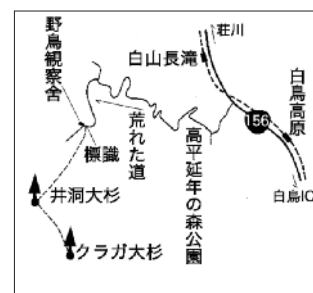


クラガ大杉 評価 C

株周 M7.3m(1.3m 2008)

岐阜県郡上市白鳥町

根元に空洞があり、背後に古株の痕跡があることから、古株に着生した天然杉が巨大化したもの。地上5m で4分岐し、主幹はすぐに2分岐、5本の幹が立上がる。



いぼら 井洞大杉 評価 C

幹周 M8.2m(1.3m 2008)

最近になって幹が破損して樹形が大きく変化し、裏面は半壊状態。これも古株更新による樹形である。